

大阪工業大学大学院 ディプロマ・ポリシーと修士設計審査項目・基準との関連

大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 建築学コース

博士前期課程

《 DPを達成するために特に関連度が高い項目に○ 》

ディプロマ・ポリシー		修士設計審査項目						
		項目1)	項目2)	項目3)	項目4)	項目5)	項目6)	項目7)
研究科DP	(1) 人類が現在直面している持続可能性をもたらす諸課題の解決に取り組み、専門職業人として社会の持続可能な発展を担うことができる。	○		○	○			
	(2) 学士課程教育で得た成果をさらに高め、専攻における専門性と隣接する知識を総合して課題解決に取り組むことができる。					○		
	(3) 研究活動を介して、課題内容を理解し解決策を導くことができ、倫理観をもって他者との協働による課題解決に取り組むことができ、説明することができる。					○		○
専攻DP	(A) 専攻が包含する幅広い知識と見識を持ち、総合的な視点から諸課題の解決に取り組み、社会の持続可能な発展に貢献できる。	○		○		○		
	(B) 建築学や都市デザイン工学における技術的能力を修得しており、専門性の高い課題に取り組み、合理的で適正な解決策を導き出すことができる。					○		
	(C) 科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、倫理観や他者との協働の意識をもった技術者としての資質を身につけ活用できる。							○
コースDP	(I) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、隣接分野からの視点を含めて総合的に取り組むことで、社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。	○		○	○	○		
	(II) 都市計画的な幅広い視点から、多様な建築を設計・施工・維持・管理する技術的能力を修得しており、それを実践で活かすことができる。							
	(III) 建築倫理に関する知見や建築技術者としてのコミュニケーション能力を修得しており、グローバルに活動できる意欲や能力を身につけ実行できる。							○

修士設計審査項目・基準

審査項目	審査基準(満たすべき水準)
項目1) 設計テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的意義を有すること。
項目2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
項目3) 独創性(新規性)	テーマの設定、研究方法、考察、設計等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
項目4) 有用性	社会に対して有用な提案となっていること。
項目5) 信頼性	既往の研究や設計事例等が適切に評価され、それらを自己の観点から十分に分析していること。
項目6) 完成度	成果物として設計コンセプトに基づいた表現が的確になされている。
項目7) 倫理性	研究倫理を守っていること。